

消費生活展_茨高まちづくりプロジェクト(イメージ図)



【茨高まちづくりプロジェクト】SDG's1分CMを制作しました！～まちづくり×SDG's

茨高独自の選択科目 2年「まちづくり」～地域とともに生きることをめざして

「さまざまなスタイルの学びを地域社会に発信するとともに、生徒がその一員として自らの在り方、生き方を考えていくことができる学びの場とすることを目的とした事業」のうち、ボランティア活動や地域連携などのまちづくり活動に平成19年から取り組んでいます。前期の学習のまとめとして、SDG'sを意識し、インタビュー取材やフィールドワークを行い、動画を制作しています。



【動画】2年「まちづくり」 変なエスカレーター～おにくるの謎～

おにくるには様々な謎が隠されているが、その1つがエスカレーター。中央にある「縦の道」と呼ばれる吹き抜けに縦横無尽に渡されるエスカレーターは、なぜそのような構造になっているのか。なぜ他の階へ移動する時、わざわざフロア内をぐるっと回って移動しなければならないのか…。それらの違和感が重なり、やがてひとつの信じがたい事実に結びつく！

【動画】2年「まちづくり」 同席食堂～茨木市と宙いも～

茨高のまちづくりの授業では野菜やさつまいもを植えています。その成長過程の日記(写真)をほぼ毎日記録しました。雑草とともに力強く成長する様子を見てもらい、今、茨木市が直面している農業の取り組みや課題を紹介するCMを、SDG'sと交えてつくりました。市民と農業がつながることをねらった、さつまいもに込められた思いを知ってください！



【動画】2年「まちづくり」 一皿がつくるみんなの笑顔

地域のボランティアなどが中心となり、子どもたちに無料または安価で食事と居場所を提供する、開かれたコミュニティの場「子ども食堂」。そこでの活動や活動者の声をまとめたこのCMが、福祉について興味をもつききっかけになればよいと思っています！！そして、あたり前に食事があるありがたみを改めて実感する機会になってほしいです。自分たちにできる「福祉」について、今一度、考えてみてはどうでしょうか？



【動画】2年「まちづくり」 君の街は。～茨木の構造について～

茨木高校のある茨木市。一見ただのベッドタウン。だけどよく見てみると、美しさ、その構造に凝らされた工夫、知性にあふれている。畢竟、それは人々の茨木への愛です。Google earth studio を活用し上空からの解説を取り入れ、より見る人にわかりやすく。おにくるという茨木の象徴やほかにも多くある茨木のランドマークにカメラを向けながら住みやすいまちづくりを解説。

【動画】2年「まちづくり」 青い光に導かれて ～茨木市から小豆島～

茨木市の姉妹都市、小豆島町。美しい瀬戸内海と、澄み渡る空。朝から夜まで一日中、心癒される景観が最大の魅力です。私たちは、今年の夏(7月末)に小豆島を訪れ、それらの魅力を肌で感じてきました。特産品のオリーブをはじめとする、おいしい食べ物やお土産などの、実際に訪れたからこそ、伝えることのできる魅力をどしどしあ届けします。



【動画】2年「まちづくり」 時間短し急げよ片付け

「これをもちまして文化祭を終了します」

この放送が流れてから茨高生の時間との戦いは始まる。茨木高校では片付けと机椅子移動が完了しなければフィナーレを開催することが認められていない。例え椅子1脚だろうと揃わなければフィナーレは開催できないのだ。過去8年でフィナーレを開催できたのはたった1度…。今年こそ…絶対に…！そんな思いと共に、茨高生はフィナーレに向かって走り出す。

【動画】2年「まちづくり」 「転生したら竹炭だった件」

茨木高校体育祭ならではの竹でつくるマスコット。体育祭が終わったあと、マスコットで使われていた竹はどうなっているのだろうか？ただごみとして終わるのか…。

それとも別の道があるのか？循環型社会へと繋がる可能性を秘めた「竹炭」という竹の新たな姿にせまる___。



「茨高まちづくりプロジェクト」(大阪府立茨木高等学校)



1895年(明治27年)大阪府立て4番目の尋常中学校(男子校)として創立。2025年で、創立130周年を迎えました。

卒業生には、ノーベル文学賞の川端康成をはじめ、政治・経済・文化・スポーツのあらゆる方面に多数の優れた人物を輩出。伝統の重みに加えて、戦後、自主自律の清新な校風も定着し、学校に活力をもたらしています。

住所 茨木市新庄町12番1号
電話番号 (072)-622-3423
HP <https://www2.osaka-c.ed.jp/ibaraki/>

ブログ「」はこちら！

